生産基盤の強化による地域農業の発展

豊富町目梨別地域４戸

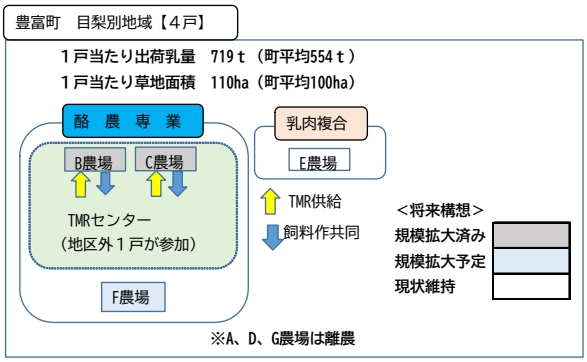
～生産効率アップで人も牛も快適に～

令和３～７年度

背景とねらい

○経年化した施設が多く、再投資や改修が必要
　→ 施設整備による飼養環境の改善(R3-R5)
○良質粗飼料確保のため、飼料作物栽培技術向上による品質及び収量の確保が必要
　→ 栽培技術向上による良質粗飼料の確保(R3-R4)
○生乳生産の向上には飼養管理の充実による疾病発生の低減や優良後継牛の確保が必要
　→ 飼養管理の充実による生産性の向上(R5-R7)
○添加剤の変更により、収穫・調製技術の再確認が必要。また、排水不良草地の適期収穫のため、簡易施工を含む排水改善が必要
　→ 牧草の収穫調製技術の改善(R6-R7)

所得の確保を実現し、永続性のある経営体を育成



対象地域の概要(R7時点)

活動経過

Ｒ４からTMRセンターが稼働することになり、農場の生乳生産性の向上、TMRセンターの草地管理、サイレージ調製技術の向上が重要と位置づけ、活動を展開した。

	具体的推進事項	目標事項	活動内容	R3	R4	R5	R6	R7
1	施設整備による飼養環境の改善	施設改善	搾乳牛飼養管理改善	○	○	○		
			乾乳牛の飼養管理改善	○	○	○		
			哺育・育成牛の飼養管理改善	○		○		
			新牛舎設立に向けた支援		○	○		
2	栽培技術向上による良質粗飼料の確保	反収向上、発酵品質向上	圃場管理改善	○	○			
			高品質サイレージの確保	○	○			
3	飼養管理の充実による生産性の向上	搾乳牛・乾乳牛の飼養管理改善、育成牛の飼養管理改善	搾乳牛・乾乳牛の飼料給与改善			○	○	○
			育成牛管理技術の改善				○	○
4	牧草の収穫調製技術の改善	草地排水簡易施工、サイレージ調製作業の改善	草地排水簡易施工				○	○
			サイレージ調製改善				○	○

活動成果

1　施設整備による飼養環境の改善　　施設改善戸数(延べ) R3　0戸→R5　8戸

・飼槽隔壁の設置により飼料給与ロス防止(写真１)
・乾乳牛の脱臼事故減少(写真２)

写真１　飼槽隔壁

写真２　溝切り施工の状況

2 栽培技術向上による良質粗飼料の確保　反収向上戸数　R3　0戸→R4　2戸
発酵品質向上戸数　R3　1戸→R4　1戸

TMRセンターに対して施肥改善を提案。
Ｒ４の牧草平均反収（乾物）は、１・２番草合計でＲ２対比127%となり、増加した（図１）。
サイレージはpHが4.0前後、Vスコアが平均96点、乾物密度150kg/㎥以上を確保と発酵品質が向上。
これらのデータは関係機関と共有した。

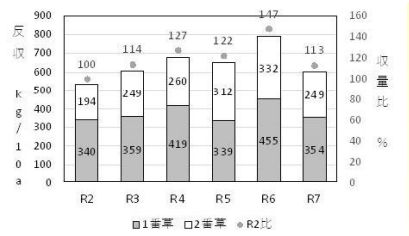


図１　１・２番草平均反収

3 飼養管理の充実による生産性の向上　搾乳牛･乾乳牛の飼養管理改善戸数　R5　0戸→R7　3戸
育成牛の管理技術改善戸数　R5　0戸→R7　3戸

【事例】搾乳牛・乾乳牛の飼養管理改善

西日対策のため、窓にベニヤ板を設置して飼槽温度を測定すると８℃低かった（写真３）。
その結果、Ｒ７はＲ６（ベニヤ板未設置）より乳量低下が抑えられた。（図２）

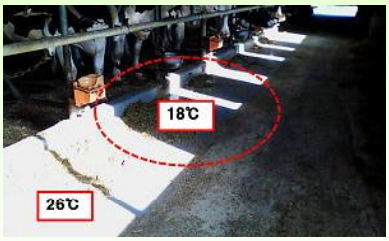


写真３　飼槽温度の違い

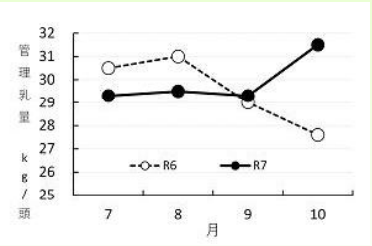


図２　暑熱対策実施前後の乳量推移

4　牧草の収穫調製技術の改善　草地排水簡易施工の取組戸数　R6　1戸→R7　1戸
サイレージ調製改善戸数　R6　0戸→R7　2戸

【事例】　サイレージ調製改善

踏圧向上のために、TMRセンター定例会でダンプの原料草運搬間隔を４分以上に延長することを提案した。
その結果、Ｒ７の運搬間隔は改善され、品質も向上した（図３、表１）。

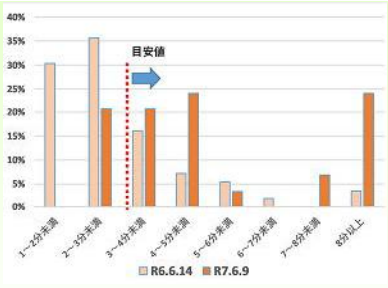


図３　原料草運搬間隔

表１　サイレージ品質

	R6	R7
水分(%)	76.0	80.3
pH	4.3	4.2
酪酸(%)	0.18	0.07
NH_3-N/TN (%)	15.5	11.1

5　最終年度到達目標
経産牛1頭あたり乳量（R2対比105%以上）　R2　9,077kg　→　R7　9,938kg（R2比109%）
農業所得額（R2対比103%以上）　R2　3,061万円　→　R7　2,442万円（R2比80%）

経産牛１頭あたり乳量は目標に到達した（図４）が、農業所得額は未到達となった（表２）。

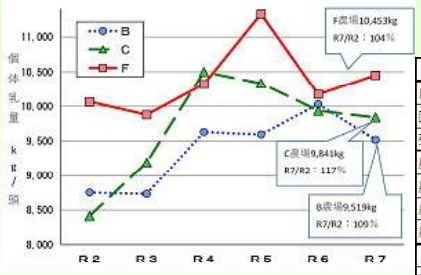


図４　個体乳量の推移

表２　経営経済的評価

区　分	R２	R３	R４	R５	R６	R７
自己資本比率（%）	69	50	47	43	27	32
固定比率（%）	126	181	193	205	355	286
売上高負債比率（%）	59	96	91	84	167	134
農業収入（R２年対比%）	100	120	128	143	150	172
農業支出（R２年対比%）	100	127	165	176	201	226
農業所得（R２年対比%）	100	107	63	86	64	80
農業所得率（%）	37	33	18	22	16	17
１戸当出荷乳量（t）	585	616	748	794	839	925
乳飼比（%）	33	42	59	54	52	53

※酪農専業農家３戸平均、Ｒ７は１～12月実績。

今後の課題と対応

一定の成果がみられたため、本課題は今年度を以て終了する。